

<参考資料－２>

水道用硬質ポリ塩化ビニル管の歴史年表

年	規格制定等
昭和11 (1936)	ドイツで初めて塩ビ管を生産
昭和26 (1951)	日本の塩ビ管第一号誕生
昭和29 (1954)	「硬質塩化ビニル管」(JIS K 6741) が制定される
昭和31 (1956)	「水道用硬質塩化ビニル管」(JIS K 6742)、「同継手」(JIS K 6743) が制定される
昭和42 (1967)	耐衝撃性硬質塩化ビニル管が販売される
昭和47 (1972)	「耐衝撃性硬質塩化ビニル管」(JWWA K 118) が制定される
昭和48 (1973)	水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管及び 水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管が販売される
昭和56 (1981)	「水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管」(JWWA K 127、K 128) 及び 「水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管」(JWWA K 129、K 130) が制定される
平成 8 (1996)	水道用ゴム輪ロング受口形硬質塩化ビニル管及び 水道用ゴム輪ロング受口形耐衝撃性硬質塩化ビニル管が販売される
平成12 (2000)	JWWA K 127、K 129 にロング受口形が追加規定される
平成23 (2011)	JWWA K 127とK 129が統合されJWWA K 129「水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP、VP)」となりロング受口はRR-Lゴム輪受口はRRと表示されることとなる。 また、JWWA K 128とK 130が統合されJWWA K 130「水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管継手(HIVP、VP)」となる。
平成25 (2013)	JWWA K 131「水道用硬質ポリ塩化ビニル管のダクタイル鋳鉄異形管」が改訂される。 JWWA B 125の規格名称の変更「水道用衝撃性硬質ポリ塩化ビニル製ソフトシール仕切弁」と内容改正が行われる。